

平成21年3月期 第2四半期決算短信〔米国会計基準〕

平成20年10月30日

上場会社名 株式会社ワコールホールディングス
 コード番号 3591 URL <http://www.wacoalholdings.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

(氏名) 塚本 能交
 (氏名) 若林 正哉

上場取引所 東大

TEL 075-682-1006

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前四半期純利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	89,585	—	8,133	—	6,610	—	4,103	—
20年3月期第2四半期	84,475	0.7	8,980	△2.2	10,199	5.7	1,875	△69.9

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期第2四半期	28.62			28.62
20年3月期第2四半期	13.34		—	

(2) 連結財政状態

	総資産		株主資本		株主資本比率		1株当たり株主資本	
	百万円		百万円		%	円	銭	
21年3月期第2四半期	236,148		182,330		77.2	1,272.04		
20年3月期	241,619		185,113		76.6	1,291.41		

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年3月期	—	—	—	25.00	25.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前当期純利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	178,000	7.4	11,500	△15.1	9,500	△33.8	5,800	16.8	40.46

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他 をご覧下さい。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 143,378,085株 20年3月期 143,378,085株

② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 40,988株 20年3月期 35,998株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 143,338,914株 20年3月期第2四半期 140,573,672株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報 をご覧下さい。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第 2 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、サブプライム問題を発端とした米国景気の減速や原油・原材料価格の高騰の影響、輸出の減少などにより企業収益は減少を続けており、景気は減速から停滞へと転じています。個人消費についても雇用者所得の伸び悩みやガソリン・食料品などの値上がりの影響から消費マインドが悪化しており、弱めの動きとなっています。また、国内の流通業におきましては、消費者の生活防衛意識の高まりによる消費の冷え込みなどの影響もあり、百貨店、量販店他各業態ともに多くの企業業績が低迷し、国内の女性ファッション衣料品業界も全般に低調に推移しました。

こうした中、当社グループは主力事業会社である株式会社ワコールを中心に、商品力の向上を図り市場のトレンドを敏感にとらえた商品の開発に注力してきました。

株式会社ワコールのワコールブランド事業本部は、キャンペーンブラジャー「LALAN（ララン）」の新製品を春・夏・秋の各シーズン毎に投入しましたが、ブラジャーは全般に低調に推移しました。また新機能ボトムスタイルサイエンス商品群は、前年実績をやや下回る結果となりましたが、実需期を迎える秋冬シーズンを前に 8 月から新製品の「クロスウォーカー」を投入しており、徐々に回復しつつあります。「クロスウォーカー」は今春から男性向けスタイルサイエンス製品として発売した商品と同じネーミングで女性用商品も出したもので、男女両方の商品を登場させて相乗効果を狙ったテレビ広告や、百貨店やチェーンストアの店頭での合同展示や販売が効果を上げています。高付加価値ブランドでは、ブランドの発売開始から年数が経つにつれ購買客層の年齢の上昇が顕著になっていた百貨店向けブランドの「パルファージュ」とミドルエイジ対象の「ラヴィエゼ」をリニューアルし、あらためてそれぞれのブランドコンセプトとする年齢層に向けた打ち出しを図りました。しかしながらパルファージュが今秋からのブランドリニューアルに向けて春夏商品の投入量を制限したことや、ラヴィエゼでは前年に同ブランドで展開していたスタイルサイエンス商品を今秋から中止したことなどで、前年未達の結果となりました。インナーウェア以外では“ツモリチサト”や“マタノアツコ”といったデザイナーのライセンスによるパーソナルウェアなどが堅調に推移しています。しかしながら主力のインナーウェア全般が不調に終わったことにより、ワコールブランド事業本部全体では売上は前年同期を下回りました。

ウイングブランド事業本部につきましては、大手取引先が売上拡大から利益重視へと販売政策を転換されたことが当社の売上に影響したこともあり、主力のインナーウェアは全般に前年同期を下回る結果となりました。そのような中におきましても春・秋のキャンペーンブラジャーは好評を得ましたが、その他のブラジャー全般が低調に推移したこともあり、ブラジャー全体では低調な結果となりました。スタイルサイエンス商品群の「スタイルアップパンツ」は春の出足は不調でしたが夏から上向きとなり、8 月に発売した、ワコールブランドの「クロスウォーカー」と同様の機能を持つ新製品「スリムアップパンツ」は順調な立ち上がりを見せています。なお上述した、男性向けのスタイルサイエンス商品「クロスウォーカー」はウイングブランド事業本部が生産販売していますが、販売開始以来マスコミなどで大きな話題となるとともに、当初の年間販売計画数量を販売開始から約 3 ヶ月で達成し、今後の拡大が期待できます。このように男性向け商品が当初計画を大きく上回ったことで、主力の女性向け商品の不振をカバーし、ウイングブランド事業本部全体の売上は、前年同期を上回る結果となりました。

SPA（製造小売）事業につきましては、百貨店や量販店では主な顧客層の消費意欲が低下し全般に厳しい状況にあることに比べると、若年層に関しては比較的消費は活発で、こうした年齢層を主な対象とする株式会社ワコールの直営店事業は、同様にこうした年齢層を対象に直営店事業を行う株式会社ウナナクールとともに、ブランドの認知が進んできたこともあいまって、売上が前年同期を上回り順調に推移しました。

通信販売事業は、第 1 四半期に女優の風吹ジュンさんを起用したカタログ編集やテレビ宣伝の投下といった販促策が奏功したことや、インターネット販売が好調に推移していることで、売上は前年同期を大きく上回りました。インターネット販売では前述の男性用「クロスウォーカー」も好評を得ています。

ウエルネス事業は、主力商品の「CW-X」がスポーツチェーン店やスポーツ専門店を中心に大きく売上を伸ばしました。形の美しさと履き心地の良さを兼ね備えた「美楽るヒール（ミラクルヒール）」などのシューズや、ストッキングなどのレッグウェアも順調に推移しています。

これらの結果、株式会社ワコール全体の売上は前年同期をやや上回る結果となりました。利益面におきましては売上の増加の他、売上利益率の改善などにより前年を上回る結果となりました。

前期に完全子会社とした株式会社ピーチ・ジョンは、通信販売に関しましては特に夏号カタログの6、7月の受注低迷により売上が低下しましたが、8月に発行した秋号カタログが好調で、この売上の落ち込みをかなり挽回しつつあります。一方、直営店売上に関しましては第2四半期に入って既存店舗の売上が回復基調となったことと、新規店舗の出店により前年同期を上回りました。これらの結果、ピーチ・ジョン全体の売上は前期並みとなりました。利益面におきましては円高の影響や商品充足率の改善などによる売上利益率の上昇、カタログ販売の効率改善のため発行部数を絞り込んだことでカタログ制作費や発送費が減少したことなどにより、前年同期を大きく上回る結果となりました。

海外事業に関しましては、米国事業が景気の減速や消費の冷え込みに伴う取引先百貨店の不振、今期で製造販売を終了するダナ・キャランのライセンス商品(DKI、DKNY)の取引の縮小などにより、現地通貨ベースの売上は前年同期を下回りました。これらの売上の落ち込みを補うまでには至らないものの、今期期初から展開している高級百貨店向けの新ブランド「Wacoal LUXE(ワコールラックス)」は取引先の評価も高く、当初計画を上回る好調なスタートとなっています。利益面におきましては、売上の減少に加え、ダナ・キャランのライセンス商品について期末時点での事業終息を視野に処分販売を進めていることによる利益率の低下などが要因で、前年同期を大幅に下回りました。こうした販売不振や利益減に加えて、連結決算ベースでは円高の進む為替の影響を大きく受ける結果となりました。中国事業につきましては、売上は前年同期に対して伸びていますが、継続商品に欠品が生じたことやスタイルサイエンス商品の不振、他社との競合の激化などにより計画数値は下回っています。中国では現在、主力のワコールブランドの商品展開に加え、若年層に向けた「アンフィ」ブランドの展開を開始しました。また、この7月から日本はもちろん中国やアジアでも人気を誇るアーティスト、浜崎あゆみさんをアジア各国で行う合同プロモーションのイメージキャラクターに起用し、ブランド認知の向上と市場でのシェア拡大に取り組んでいます。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高895億85百万円で前年同期に比し6.0%の増加、営業利益は81億33百万円で前年同期に比し9.4%の減少、税金等調整前四半期純利益は66億10百万円で前年同期に比し35.2%の減少、一方、四半期純利益は41億3百万円で前年同期に比し118.8%の増加となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の売上原価率は、株式会社ワコールにおいて店頭を含めた在庫の低減に努め、評価減による損失が縮小したことなどにより、全体では前年同期に比して1.3%の改善となりました。一方、今期より株式会社ピーチ・ジョンの業績が連結されたことなどにより売上が増加しているにもかかわらず、営業利益と税金等調整前四半期純利益が前年を下回っていますが、これは営業面での業績の低下や為替の変動による影響の他に、営業利益については、株式会社ワコールにおいて年金費用が約4億円増加したことや、東海ワコール縫製株式会社が6月末を以て解散したことに伴う損失を約6億円計上したこと、さらに前年同期に約5億円計上した固定資産の売却益がなくなることなどによります。税金等調整前四半期純利益については、時価下落による保有有価証券の評価損失を約22億円計上したことや、前期に計上した約6億円の有価証券売却益がなくなることなどが影響しています。一方、四半期純利益が大幅に増加していますが、これは前期に株式会社ピーチ・ジョンの株式に係る評価損約47億円を持分法による投資損失として計上しましたが、今期はこれがなくなることによります。これらの特殊要因や一過性要因による利益の変動に関しては、平成20年5月9日発表の当期業績予想に織り込み済みです。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債、株主資本等の状況

当第 2 四半期連結会計期間末における総資産は、有価証券の減少や為替の変動による関連会社投資の減少などにより、前連結会計年度末に比して 5 億 7 1 百万円減少し、2,361 億 4 8 百万円となりました。

負債の部は、流動負債が未払金の減少、固定負債が繰延税金負債の減少などにより、前連結会計年度末に比して 2 億 2 9 百万円減少し、5 1 6 億 2 6 百万円となりました。

株主資本は、為替換算調整額の変動などにより、前連結会計年度末に比して 2 億 8 3 百万円減少し、1,823 億 3 0 百万円となりました。

以上の結果により、当第 2 四半期連結会計期間末における株主資本比率は、前連結会計年度末に比して 0.6% 増加し、77.2% となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第 2 四半期末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比して 1 億 7 百万円減少し、2 億 6 3 億 3 6 百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益を 4 億 1 億 3 百万円計上したものの、売掛債権の増加等による影響により、3 億 2 5 百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還収入などがあつたものの、有形固定資産の取得などにより、3 億 7 8 百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより、4 億 2 0 百万円の支出となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

米国発のサブプライム問題は、大手証券会社の経営破綻から世界的な金融危機に波及し、世界経済全体を脅かす状況となっています。国内においても輸出や生産、雇用などの経済指標が低下し景気の後退が懸念されています。これに伴い消費者心理も一層冷え込み、当社の主力市場である国内の流通市場は今後さらに厳しい状況を迎えることが予想されます。また海外におきましても実体経済の悪化による消費の冷え込みとともに、円高の進行による連結業績への影響も、さらに大きくなると考えられます。

こうした状況の下、国内事業におきましては、新機能ボトムスタイルサイエンス商品の「クロスウォーカー」や、昨期において当初の販売計画を大きく上回る実績を上げた肌着の「スゴ衣」といった商品が実売時期を迎えることに応じ、商品対応を適切に行い、昨年を上回る売上を狙います。

海外事業に関しては、米国事業は好評を得ている高級百貨店向けブランド「Wacoal LUXE」を中心に店頭販売の強化に努めていきます。さらに原材料のコストダウンなどによる利益率の改善など、厳しい状況下における業績の更なる低下に歯止めをかけるように努めます。中国では浜崎あゆみさんをイメージキャラクターとした積極的な広告活動を本格的に展開します。これを受け店頭におきましても、ワコールブランドの一層の浸透を図りつつ、若年層向けブランド「アンフィ」と高付加価値ブランド「サルート」を加えた 3 ブランド体制を強化していくことで多様化した消費者ニーズに対応していきながら、中国市場でのシェア拡大を狙います。

しかしながら上述した厳しい経営環境の中においては、こうした努力を重ねたとしても、当初の計画を達成することは極めて困難と判断し、通期連結業績予想を修正することとしました。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①公正価値の測定

平成18年9月に、米国財務会計基準審議会は、基準書第157号「公正価値の測定」を公表しました。基準書第157号は、公正価値を定義し、公正価値を測定するための枠組みを確立するとともに、公正価値の測定に関する開示を拡大しております。基準書第157号は、公正価値の測定を要求又は容認している他の会計基準の下で適用され、従って、新しい公正価値の測定を要求するものではありません。当社グループは基準書第157号を当連結会計年度より適用しておりますが、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況への重要な影響はありません。

②金融資産及び金融負債に関する公正価値の選択—基準書第115号の改訂を含む

平成19年2月に、米国財務会計基準審議会は、基準書159号「金融資産及び金融負債に関する公正価値の選択—基準書第115号の改訂を含む」を公表しました。基準書第159号は、特定の金融資産及び金融負債を公正価値で測定することを選択できる旨を規定しており、公正価値の変動は損益に計上されることとなります。また、基準書第159号は、類似の資産・負債について異なる測定方法を選択している企業間の比較を容易にするための、表示や開示の要件についても規定しております。当社グループは基準書第159号を当連結会計年度より適用しておりますが、金融資産及び金融負債に関する公正価値の選択をしていないため、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況への影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度の 連結貸借対照表 (平成20年3月31日)	増減金額
(資産の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動資産			
現金及び預金	14,020	15,857	△ 1,837
定期預金及び譲渡性預金	12,316	12,186	130
有価証券	10,277	12,614	△ 2,337
売掛債権			
受取手形	198	353	△ 155
売掛金	24,408	22,337	2,071
	24,606	22,690	1,916
返品調整引当金及び貸倒引当金	△ 2,643	△ 3,145	502
	21,963	19,545	2,418
たな卸資産	31,754	30,020	1,734
繰延税金資産	5,857	5,411	446
その他の流動資産	2,397	3,212	△ 815
流動資産計	98,584	98,845	△ 261
II. 有形固定資産			
土地	20,616	20,711	△ 95
建物及び構築物	58,534	58,575	△ 41
機械装置及び工具器具備品等	14,161	14,448	△ 287
建設仮勘定	42	99	△ 57
	93,353	93,833	△ 480
減価償却累計額	△ 42,918	△ 42,285	△ 633
有形固定資産計	50,435	51,548	△ 1,113
III. その他の資産			
関連会社投資	16,933	18,942	△ 2,009
投資	36,806	38,056	△ 1,250
のれん	11,203	11,203	—
その他の無形固定資産	12,980	13,216	△ 236
前払年金費用	2,703	3,444	△ 741
繰延税金資産	1,074	1,462	△ 388
その他	5,430	4,903	527
その他の資産計	87,129	91,226	△ 4,097
資産合計	236,148	241,619	△ 5,471

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度の 連結貸借対照表 (平成20年3月31日)	増減金額
(負債の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動負債			
短期借入金	4,672	5,572	△ 900
買掛債務			
支払手形	2,108	1,935	173
買掛金	11,023	9,394	1,629
	13,131	11,329	1,802
未払金	4,723	6,327	△ 1,604
未払給料及び賞与	6,316	6,645	△ 329
未払税金	3,344	3,872	△ 528
その他の流動負債	2,621	2,265	356
流動負債計	34,807	36,010	△ 1,203
II. 固定負債			
退職給付引当金	2,089	2,181	△ 92
繰延税金負債	13,269	14,527	△ 1,258
その他の固定負債	1,461	1,437	24
固定負債計	16,819	18,145	△ 1,326
(少数株主持分)			
少数株主持分	2,192	2,351	△ 159
(資本の部)			
I. 資本金	13,260	13,260	—
II. 資本剰余金	29,283	29,262	21
III. 利益剰余金	137,108	136,589	519
IV. その他の包括損益累計額			
為替換算調整額	△ 2,329	248	△ 2,577
未実現有価証券評価益	5,372	5,295	77
年金債務調整勘定	△ 302	514	△ 816
V. 自己株式	△ 62	△ 55	△ 7
資本計	182,330	185,113	△ 2,783
負債、少数株主持分及び資本合計	236,148	241,619	△ 5,471

(2) 四半期連結損益計算書

【第2四半期連結累計期間】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)		前第2四半期連結累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)		増減金額 百万円
	百万円	%	百万円	%	
I. 売上高	89,585	100.0	84,475	100.0	5,110
II. 営業費用					
売上原価	42,932	47.9	41,550	49.2	1,382
販売費及び一般管理費	38,520	43.0	33,945	40.2	4,575
営業費用計	81,452	90.9	75,495	89.4	5,957
営業利益	8,133	9.1	8,980	10.6	△ 847
III. その他の収益・費用(△)					
受取利息	132	0.1	131	0.2	1
支払利息	△ 38	△ 0.0	△ 42	△ 0.0	4
受取配当金	421	0.5	372	0.4	49
有価証券・投資有価証券 売却益及び交換益	19	0.0	651	0.8	△ 632
有価証券・投資有価証券評価損	△ 2,256	△ 2.5	△ 9	△ 0.0	△ 2,247
その他の損益(純額)	199	0.2	116	0.1	83
その他の収益・費用計	△ 1,523	△ 1.7	1,219	1.5	△ 2,742
税金等調整前四半期純利益	6,610	7.4	10,199	12.1	△ 3,589
法人税等	3,000	3.3	4,306	5.1	△ 1,306
持分法による投資損益及び少数 株主利益調整前四半期純利益	3,610	4.1	5,893	7.0	△ 2,283
持分法による投資損益	554	0.6	△ 3,943	△ 4.7	4,497
少数株主利益	△ 61	△ 0.1	△ 75	△ 0.1	14
四半期純利益	4,103	4.6	1,875	2.2	2,228
1株当たり四半期純利益	28 円 62 銭		13 円 34 銭		

(注) 米国財務会計基準審議会基準書第130号「包括利益の報告」を適用しており、同基準書に基づく当第2四半期、前第2四半期の資本取引以外の資本勘定の増減(包括損益)はそれぞれ、787百万円の増加、1,478百万円の減少となっております。

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)
	百万円	百万円
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		
1. 四半期純利益	4,103	1,875
2. 営業活動によるキャッシュ・フローへの調整		
(1)減価償却費	2,169	1,941
(2)返品調整引当金及び貸倒引当金	△ 456	63
(3)繰延税金	△ 757	466
(4)固定資産除売却損益	82	△ 440
(5)固定資産の減損損失	29	—
(6)有価証券・投資有価証券評価損	2,256	9
(7)有価証券・投資有価証券売却益及び交換益	△ 19	△ 651
(8)持分法による投資損益(受取配当金控除後)	3	4,675
(9)資産及び負債の増減		
売掛債権の増加	△ 2,080	△ 2,813
たな卸資産の増加	△ 2,076	△ 311
その他の流動資産等の減少	774	1,709
買掛債務及び未払金の増加(△減少)	896	△ 2,018
退職給付引当金の減少	△ 720	△ 1,367
未払費用及びその他の負債の増加(△減少)	△ 406	2,162
(10)その他	△ 273	91
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,525	5,391
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		
1. 有価証券の売却及び償還収入	2,733	4,206
2. 有価証券の取得	△ 593	△ 5,702
3. 有形固定資産の売却収入	96	845
4. 有形固定資産の取得	△ 1,423	△ 886
5. 無形固定資産の取得	△ 776	△ 633
6. 投資の売却収入	30	1,328
7. 投資の取得	△ 416	△ 604
8. その他	△ 29	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 378	△ 1,429
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
1. 短期借入金の純増加(△減少)額	△ 904	183
2. 長期債務による調達	—	9
3. 長期債務の返済	△ 25	△ 26
4. 自己株式の取得	△ 7	△ 8
5. 配当金の支払	△ 3,584	△ 3,093
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,520	△ 2,935
IV. 為替変動による現金及び現金同等物への影響額	△ 334	6
V. 現金及び現金同等物の増減額	△ 1,707	1,033
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	28,043	19,816
VII. 現金及び現金同等物の期末残高	26,336	20,849

補足情報

現金支払額		
利息	39	41
法人税等	4,092	1,333
現金支出を伴わない投資活動		
株式交換による投資有価証券の取得額	9	143

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

① 事業の種類別セグメント情報

当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）

（単位：百万円）

	繊維製品及び 関連製品	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高及び営業損益					
(1) 外部顧客に対する売上高	83,691	5,894	89,585	—	89,585
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,744	1,744	△ 1,744	—
計	83,691	7,638	91,329	△ 1,744	89,585
営業費用	74,912	7,708	82,620	△ 1,168	81,452
営業利益（△損失）	8,779	△ 70	8,709	△ 576	8,133

前第2四半期連結累計期間（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円）

	繊維製品及び 関連製品	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高及び営業損益					
(1) 外部顧客に対する売上高	76,993	7,482	84,475	—	84,475
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,818	1,818	△ 1,818	—
計	76,993	9,300	86,293	△ 1,818	84,475
営業費用	67,997	9,192	77,189	△ 1,694	75,495
営業利益	8,996	108	9,104	△ 124	8,980

(注) 1. 事業区分は、製品をその種類・性質・販売市場の類似性により、繊維製品及び関連製品とその他に区分しております。

2. 各事業の主な製品

繊維製品及び関連製品 … インナーウェア（ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー）、アウターウェア、スポーツウェア、レジャーウェア

その他 … マシン人形、店舗設計・施工、飲食・文化・サービス他

3. 営業費用の内、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、当第2四半期連結累計期間576百万円であり、その主なものは、本社管理部門に係る費用等であります。

② 所在地別セグメント情報

当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）

（単位：百万円）

	日本	アジア	欧米	計	消去又は 全社	連結
売上高及び営業損益						
(1) 外部顧客に対する売上高	77,613	3,894	8,078	89,585	—	89,585
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	675	4,564	—	5,239	△ 5,239	—
計	78,288	8,458	8,078	94,824	△ 5,239	89,585
営業費用	71,415	7,601	7,099	86,115	△ 4,663	81,452
営業利益	6,873	857	979	8,709	△ 576	8,133

前第2四半期連結累計期間(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	欧米	計	消去又は 全社	連結
売上高及び営業損益						
(1)外部顧客に対する売上高	71,142	3,980	9,353	84,475	—	84,475
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	531	3,391	—	3,922	△ 3,922	—
計	71,673	7,371	9,353	88,397	△ 3,922	84,475
営業費用	64,594	6,827	7,872	79,293	△ 3,798	75,495
営業利益	7,079	544	1,481	9,104	△ 124	8,980

(注) 1. 国又は地域の区分の方法は地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア: 東アジア及び東南アジア諸国

欧米: 北米及びヨーロッパ諸国

3. 営業費用の内、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、当第2四半期連結累計期間576百万円であり、その主なものは、本社管理部門に係る費用等であります。

③ 海外売上高

当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位:百万円)

	アジア	欧米	計
I. 海外売上高	3,894	8,078	11,972
II. 連結売上高	—	—	89,585
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合	4.4 %	9.0 %	13.4 %

前第2四半期連結累計期間(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	アジア	欧米	計
I. 海外売上高	3,980	9,353	13,333
II. 連結売上高	—	—	84,475
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合	4.7 %	11.1 %	15.8 %

(注) 各区分に属する主な国又は地域

アジア: 東アジア及び東南アジア諸国

欧米: 北米及びヨーロッパ諸国

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(7) 生産及び販売の状況

① 生産実績

事業の種類別 セグメントの名称	当第2四半期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日		前第2四半期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
繊維製品及び関連製品	百万円	%	百万円	%	百万円	%
	34,631	100.0	35,052	100.0	△ 421	△ 1.2

② 販売実績

事業の種類別 セグメントの名称	当第2四半期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日		前第2四半期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日		増減		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
繊維製品 及び 関連 製品	インナーウェア ファンデーション ・ランジェリー	65,356	73.0	63,462	75.1	1,894	3.0
	ナイトウェア	5,882	6.6	5,534	6.6	348	6.3
	リトルインナー	1,070	1.2	1,023	1.2	47	4.6
	小計	72,308	80.8	70,019	82.9	2,289	3.3
	アウターウェア ・スポーツウェア等	7,371	8.2	4,158	4.9	3,213	77.3
	レッグニット	760	0.8	901	1.0	△ 141	△ 15.6
その他繊維製品 及び関連製品	3,252	3.6	1,915	2.3	1,337	69.8	
計	83,691	93.4	76,993	91.1	6,698	8.7	
その他	5,894	6.6	7,482	8.9	△ 1,588	△ 21.2	
合計	89,585	100.0	84,475	100.0	5,110	6.0	